

桜花の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部の皆様には恙なくお過ごしのことと、大慶に存じます。また皆様には当支部運営に際し、特段のご高配を賜り感謝申し上げる次第です。

さて3月の自衛隊関連行事は3日に小雨降る寒い中、埼玉県の大宮駐屯地で32連隊会が挙行され、その総会席上で何と不肖小倉が連隊長表彰を受賞する事と相成り、受賞理由は遠く宮崎から毎年市ヶ谷や大宮の連隊会に出席し、その運営に貢献したからとのことでした。(笑)

連隊からの表彰は昭和52年3月以来の事であり、42年ぶりの椿事に恥ずかしいやら照れくさいやらで、先輩や後輩達に冷やかされながら、大変美味しいお酒を皆で頂いた次第です。

また21日は横須賀の武山駐屯地で、高等工科学校62期生徒卒業式が花曇りの中実施され、327名の若桜達が3年間の厳しい教育訓練を終了し、各々の赴任地へと巣立って行きました。

卒業生の中には17名の防衛大学校や13名の海空航空学生も含まれ、正に今後の祖国防衛を担う基幹要員として輝く瞳を眩しく眺め乍ら、彼らが自衛官として職務を全うする中で1発の小銃や砲弾を放つような事態が到来せぬ事を祈念しつつ、早春の桜と共に送り出した処です。

ところで毎回この支部長通信にご掲載頂く軍事アナリスト小川和久先生は、高等工科学校の前身である少年工科学校の7期生で、学校行事にはご来賓として必ずご臨席頂いておりますが、今年も式典前に約20分ほどお話を伺う機会を得まして、下記のメルマガの裏話を色々拝聴致しましたので、今度何かの折に皆様に披瀝したいと存じます。(笑) 先ずはご精読下さい。

----- 昭和三大馬鹿査定」と辺野古案 -----

またしても**辺野古移設問題**が暗礁に乗り上げそうな情勢です。

「**防衛省**が15日に国会に提出した調査報告書は、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への移設計画について、全体の**工期**や**総事業費**を明示しなかった。移設後の**地盤沈下**への懸念も払拭(ふっしょく)されておらず、工事中止を求める野党は18日の参院予算委員会で追及する方針だ。

報告書の公表を受け、**立憲民主党の蓮舫参院幹事長**は「**工法**は本当に確立しているのか、**コスト**はいくらかかるのか」と報告書の疑問点を記者団に指摘した。安倍政権は移設推進の理由に「一日も早い普天間の危険性除去」を挙げているが、蓮舫氏は「ここから先(工期が)何年なのか不透明になった。**むしろ普天間の固定化**で、政府の論理は壊れた」と批判した。

野党は(1)**地盤改良工事**が一般的な工法で**可能か**(2)政府が当初計画で示した約8年の**工期**が実際にどのぐらい延びるのか(3)最低3500億円とした**総事業費**がどこまで膨らむか――に注

目している。工期と総事業費が**あいまい**なことについて、**防衛省**関係者は「地盤改良と埋め立ては同時並行で工事できる可能性がある。**工費は詳細の設計が決まらないと出ない**」と説明する。

報告書は**地盤沈下**を「供用開始から**20年間で40センチと推定**」と記した。同様に海上を埋め立てた羽田空港(D滑走路)の地盤沈下は100年間で69センチと予測されている。沈下が進めば対応するための**総事業費が膨らむ**のは確実で、報告書の推定を巡っても議論が起こりそうだ。【前谷宏、小田中大】(3月16日付**毎日新聞**)

そこです。

建設費が高くて、工期が長くて、実現可能性も危ぶまれる移設案に**政府がこだわるのはなぜ**だろう、と。

国土交通省のホームページを見ると、この**十数年**の間に建設された**民間空港**の一覧表があります。

見やすいように加工すると、以下のようになります。(一覧表省略)m()m

辺野古案は用地買収の必要もありませんし、**特殊な工法も必要ありません**。

総工費**3500億円**以上という**辺野古案**がどれほど**異様**かわかるでしょう。

そう眺めると、**辺野古案**は「**昭和三大馬鹿査定**」(1987年12月、大蔵省主計局の田谷廣明主計官が戦艦大和・武蔵、伊勢湾干拓、青函トンネルをやり玉に挙げ、物議を醸した)が百点満点に見えるほどの**愚行**か、それとも**汚職**の産物としか考えられないのです。

しかし、その責任を追及したり、汚職だと叫んだりするだけでは事態は好転しません。

そこで、普天間基地移設問題に最初から**関わった者**として、**仕切り直しの試算**をしました。

私が2010年に米国政府と交渉したとき、米国側に提示した**米国のゼネコン**が建設した軍用飛行場(2700メートル滑走路)の工期は**1年半**でした。沖縄県の条例では3年以上かかるとされていた**環境アセスメント**も、キャンプ・ハンセンという**米軍基地内**に建設するということで米国の法律が適用され、海兵隊の海外での工事などが弾力的に運用されていることもあって、**1年以内**で済むこともわかりました。

例えば**富士山静岡空港**(2500メートル滑走路)は、ほぼ普天間飛行場と同じ規模ですから、その本体部分の建設費**490億円**を前提に試算してみます。これまで**辺野古案**に投入された税金は**2200億円**とされています。

$3500\text{億円} - (2200\text{億円} + 490\text{億円}) = 810\text{億円}$

キャンプ・ハンセン内を通っている**沖縄自動車道を地下化**するのに810億円を充てるとして、着手から**4年以内**くらいで、**できる**じゃないですか。

「2200億円も突っ込んだのだから、もう**後戻りできない**」なんて言ってはなりません。

なにしろ、クローズアップされている**軟弱地盤問題**では、沖縄県の試算にある2兆5000億円はともかくとして、数千億円以上の「**追い銭**」が必要となるのは明らかです。「泥棒に追い銭」とは言いませんが、こんな無駄遣いは**安倍政権の汚点**になることは間違いありません。

心ある政治家と官僚が速やかに**方針転換し、沖縄県民の信頼**を取り戻すことを願っています。
以上。

小川先生によれば、この**辺野古（キャンプシュワブ）案**には様々な利権が絡んでいるとのこと
で、政治家の個人名まで上げて赤裸々なスクープ記事もどきのお話を直に伺いましたが、とても私には活字にする勇氣などなく、それは小川先生も同じ思いなのでしょう。

しかし国防防衛ライン上の沖縄本島及び先島諸島にはその拠点が必要であり、その為には沖縄県民の理解と協力が最重要であることは云うまでもなく、与野党を問わず政治家は国土防衛の責務を等しく担っているはずで、誠に不本意ではありますが日本の現状や近隣諸国の動向を勘案すれば日米同盟はやむを得ない選択肢の一つと考え、そこで政治家は知恵と汗を流して頂かねばなりません。

特に九州は西方重視の一大防衛拠点であり、西普連や第42即応機動連隊の増強や改編を目の当たりにすれば、政府や防衛省の本気度もひしひしと感じようかと云うものです。

私も沖縄には大切な友人知人が大勢いますので、彼らとも力を合わせて沖縄防衛、ひいては日本の防衛の為に何が出来るか我々青年部会も考え、そして行動する必要があるそうです。

いよいよ新元号が本日発表されますが、本紙は平成最後の支部長通信となります。

今月来月と慌ただしくお御代替わりの行事等が続きますので体調管理には十分ご注意の上、皆様呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成31年4月1日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦

